

コミュニケーション障がい者の 幸せな生き方を見つけ出すための研究を

小園真知子 熊本保健科学大学保健科学部リハビリテーション学科言語聴覚学専攻教授

一冊の本との出会いが 未来を変えた

第一希望の大学・学部に入ったものの「自分が本当にやりたいことは何か」を在学中ずっと探し続けていました。大学3年の頃『どもりの話(神山五郎著)』という本に出合って、言葉のリハビリの仕事に就きたいと思い、専門を学ぶために大阪教育大学言語聴覚障害専攻科に入学。しかし当時の日本では言語リハビリの就職はなく、卒業後はすぐに結婚・出産を経験。その後、家族でアメリカへ渡り留学いたしました。帰国後は、リハビリ病院で約25年間、言語聴覚障害の臨床を行いました。1999年に第1回の国家試験『言語聴覚士』の国家資格を取得。2010年に熊本保健科学大学リハビリテーション学科に『言語聴覚学専攻』を立ち上げるために大学に勤務し、現在に至っています。

言語聴覚士は、一般の方々には十分理解されていない言葉の障害を持つ方々の回復の力になる仕事です。言語聴覚障害を持つ方々が、その人なりの生き方を見つけ出し、「言葉のリハビリをしてよかった」と実感して



高次脳機能障害の研究プロジェクトのメンバー

もらえるという経験が、この仕事のなによりの魅力です。

私生活の充実と 健康があればこそ

また、良い仕事をするためには、私生活の充実と健康がとても大切。そのため、会議などがない日は家族の食事を作るために、出来るだけ夜遅くまで職場で作業をしないように心がけています。家族との旅行など、気分転換と家族内のコミュニケーションのための時間も積極的に作っています。

女性の場合、妊娠・出産を経験すると、仕事にワンクッションを置かなければならない時期があります。しかし長い目で見ると、手のかかる乳幼児を育てるのは人生のなかでほんの短い期間であり、喜びと学びが与えられる期間でもあります。家庭と仕事の両立は大変なようにみえますが、生活のリズムができる意外と乗り越えられるもの。みなさんも与えられた役割と時間のなかで「**何を優先すべきか**」を選びながら、夢をひとつひとつ実現していったと思います。



私の選歴のお祝いにと集まってくれた家族



Machiko KOZONO

教育学部
大学助手
修士課程
病院(臨床)
大学教員

一生
続けた
仕事を
目指しました

One day

6:00 起床
8:10 業務開始(メール返信、事務処理)
9:00 就業
講義・学会準備・会議
学生指導・研究打ち合わせ
19:00 帰宅→夕食、その他いろいろ
21:00 趣味のテニスで体カブクリ
24:00 入浴・就寝

◎座右の銘
当たって砕けろ Take a chance.
◎リフレッシュ方法
音楽を聴く
(ロック!時にはライブにも)

profile

こぞのまちこ / United States International University 修士課程修了(コミュニケーション学修士)。熊本大学在学中に言語聴覚障害に興味を持つが、卒業時は言語リハビリの就職はなく、結婚、出産後、家族でアメリカ留学、言語聴覚障害について再度学ぶ。帰国後、約25年間リハビリ病院で臨床を行う。1999年第1回の国家試験で言語聴覚士の国家資格取得。2010年熊本保健科学大学リハビリテーション学科に言語聴覚学専攻を立ち上げるため大学に勤務し、現在に至る。



Q.研究者として現在の仕事にどのような魅力を感じていますか?(複数回答含む)
やり甲斐 87% 社会的地位 10% 収入 3% 社会との関わり 46%
好きなことに没頭できる 51% 特にない 5% その他 5%